

# 苗立ち安定化に向けた 酸素発生剤コーティングの ポイント

-2013年改訂版-



水稻直播研究会

# 1.種糲の準備

## ●種糲

- ・採種園のものを購入し、使用する。
- ・塩水選を行う場合は、液比重はウルチ1.13モチ1.08とする。終了後よく水洗いする。



●浸漬

## ●種子消毒

- ・薬剤処理は箱育苗の場合に準ずる。

## ●浸漬・催芽

- ・種糲を計量し、網袋に入れ浸漬する。
- ・直射日光の当たらない場所に置き、1日1回水を交換する。
- ・水温15°C前後で4~6日間浸漬し、催芽は鳩胸程度に止める。  
(日平均水温積算値 60~80°C)



●脱水機

## ●水切り

- ・脱水機で3分間脱水する(自動コーティング装置では必須)。
- ・脱水機を使用できない場合、網袋を床面から離して水切りする。

## ●糲の催芽程度によるコーティングの仕上がりの違い



●適度な催芽状態の糲



●芽の伸びた糲



●コーティング糲



●種糲の芽が伸びていると、コーティング作業中に芽が折れて出芽率を低下させる。

●酸素発生剤(以下カルパー)が剥れ易くなるため、播種機繰出し部の詰まり等、播種作業に支障をきたす。

# 2.酸素発生剤コーティング

## 1) コーティング作業に必要なもの

### ●カルパー粉粒剤16

### ●コーティング装置 (手動または自動)

- ・乾燥種糲重量の等倍量~2倍量

・小型コーティング装置(ドラム直径90cm)  
乾糲15kg/回(等倍量)~10kg/回(2倍量)

・大型コーティング装置(ドラム直径140cm)  
乾糲45kg/回(等倍量)~30kg/回(2倍量)

・自動コーティング装置(ドラム直径100cm)

カルパーと水供給を自動化、乾糲10~20kg/回



●小型コーティング装置

### ●必要な小道具

水道水用耐圧ホース(網入り)

ステンレス製ヘラ(ドラム付着物の除去)

金属製タワシ(ドラム面の掃除)

取り出し用“み”(プラスチック製)

塵取り(プラスチック製)

はさみ、はかり、網袋、ござ、

カップ(仕上げ用カルパー取分けに使用)



●小道具の例



●自動コーティング装置

## 2) 手動コーティング装置の調整

- 平らな場所に設置する。
- ドラム角度を鎖またはハンドルによって調整する。  
関東(50Hz):50° 関西(60Hz):53°
- ノズルとホースは水漏れのないように接続する。



●ノズルとホースの接続状況

### 手動コーティングのポイント

- ドラムを回転させ、所定量の種粉を投入し、カルパーが種粉の表面に均一に付着するよう数回に分け、少量ずつ投入する。
- カルパーの投入は、装置の向かって右側に立ち、袋を両手で持ち、ドラム面下部に袋の先端をつけるようにして投入する。
- カルパーが種粉に十分付着し、余分なカルパーがドラム面の右上部に飛びはじめたら投入を一旦止め、水の噴霧準備をする。
- 水の噴霧形状が円筒形になるように水量を調整する。
- 水の噴霧位置はドラム回転面の右上部とし、水が種粉のない部分と渦（左部分）にかかるないようにする。
- 水はカルパーを全量投入し終わるまで連続して噴霧する。
- ドラム右上部に飛び出していたカルパーが消えた後、白い縞模様が見えなくなり、均一な色になった時にカルパーを再投入する。
- 種粉に付着しきれないカルパーが、右側上部に飛び出すようになった時点でカルパー投入を一時中止する。
- 再投入と一時中止を繰り返し、全てのカルパーを投入し終え、全体が均一な色になった時点で水の噴霧を止め、ノズルを離す。
- 仕上げに少量のカルパーを投入し、そのまま5分間継続運転する。
- ドラムを回転させたまま“み”を用いてコーティング種粉を取り出す。
- 種粉10kgのコーティング時間は約20分が目安。
- 同時コーティング登録を有する農薬を混合コーティングする場合は、カルパーの全量を3分割した中間の袋に所定量を混合し、コーティングする。



## 3) 自動コーティング装置の調整

- 平らな場所に設置し、ドラム角度を調整する。
- 地域の周波数に合わせる。
- 表示板の運転モードを目的のコーティング量に合わせる。
- ホッパーへのカルパー投入量は繰り出し部に貯まる量を考慮し、9kg以上余分に投入する。
- 水圧は所定圧0.2Mpaに調整する。
- 給水ホースの割れ、詰まりをチェック。

## 自動コーティングのポイント

- 連続作業なのでカルパーを随時補給する。
- 貯水タンク（バケツ）の水量を隨時確認し、給水する。
- 水圧の変化、ノズルの詰まり等を適宜確認する。
- 農薬をコーティングする場合には、所要時間の中間の時点でドラム内に直接投入する。
- 仕上がったコーティング種糲は一輪車に取り出すと作業が早い。



●水量の確認

●水圧の確認



●カルパーの補給



●農薬のサンディッチ処理



●一輪車での取り出し

## 3.コーティング種糲の陰干

- ござの上に広げて、約30分程度陰干する。
- コーティング種糲は網袋に入れて、床面から離して平置きする。
- 過乾燥を防ぐため、ござをかける。
- コーティング種糲（2倍量の場合）の重量は、処理前の3.5～3.55倍になる。
- 圃場への運搬もそのまま網袋を利用する。



●ござに広げ陰干

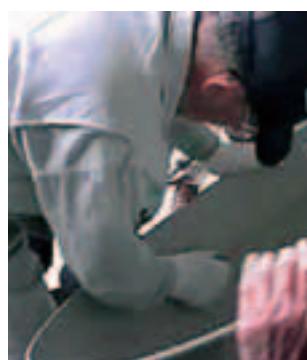


●パレット上での保管

## 4.後片付け

### ●手動コーティング装置

- ドラムを回転させたまま、ドラム面の付着物を金属製タワシ、ヘラで剥がし、塵取りで取り除く。
- ドラム面を乾いた布で拭き取る。



●金属製タワシで壁面を掃除する



●ヘラで掃除する

●塵取りで付着物を取り除く

### ●自動コーティング装置

- ドラム面の付着物を金属製タワシ、ヘラで剥がし、塵取りで取り除く。
- ドラム面を乾いた布で拭き取る。
- 繰出し部分に残ったカルパーをブラシ等で取り除く。
- 水洗いは厳禁。



●金属製タワシで壁面を掃除する

●布で拭き取る

●繰出部をブラシで掃除する

●塵取りで付着物を取り除く

問合せ先 水稲直播研究会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル 4階  
穀物乾燥貯蔵施設協会内 TEL : 03-6379-4534 FAX : 03-6379-4528